

2018年度 一松工房 事業報告

1.事業活動重点事項の成果及び課題

①就労継続支援事業B型

- ・各利用者の適性や状況に応じた作業種拡大を、委託作業を中心に行った。また作業班をまたがる形で一人ひとりに合わせた作業内容になるよう柔軟に対応しながら進めた。
- ・味噌生産において糀作りの米蒸し工程を改善するなど加工技術の維持向上を進められた。
- ・持病や加齢の伴う利用者の配慮のため、除草作業など負担の大きいものは別の作業で対応をしてきた。
- ・2018年5月に1名の利用者が一般就労した。現在は6か月以上就労が継続しており、既にときわぎ工舎の就労定着支援事業による支援へ引き継いだ。引き続き一松工房としても支援していく。
- ・工賃収入はEM、味噌ともに売上がほぼ予算通りに達成できた。委託作業においては若干受注が減ったが、年度終盤には今後継続が期待できる新規の内職作業が導入されたことで次年度以降の対策の目途はたった。
- ・2017年度味噌作業において現有設備での最大量の生産販売を行うことが出来たが、2018年度においても継続して行うことが出来た。
- ・直売所への在庫チェックや納品を作業班が連携して行うことも通年通して職員間で意識的に取り組むことが出来た。
- ・EMボカシにおいては、農業系企業からの大口注文が2018年度は若干減少したことで売上額がやや落ちた。

②就労移行支援事業

- ・2018年度事業休止していたが、9月事業指定更新時に廃止となった。

2. 運営について

<定員割れをしている現状を改善する> (定員 20 名)

	利用契約者数	平均利用者数	備考
2017 年度	25 名	17.4 名	新規 2 名、退所 1 名
2018 年度	27 名	19.2 名	新規 3 名、退所 1 名

- ・利用者の送迎体制については、ときわぎ工舎と送迎のあり方の見直し作業に入り、個別面談にて送迎ニーズを確認した。2019 年度にむけて、すでに各利用者の個別支援としての送迎のあり方を検討し始めており、今後、ときわぎ工舎とともに全体的な送迎コース案作成へと作業していく。
- ・特別支援学校、相談支援、関係機関等に引き続きアピールした結果、3 名の新規利用者が入った。
- ・生活介護も視野に入れた次年度の事業展開に向けた具体的な動きを進めることができなかった。

<職員の姿勢と行動>

- ・職員間で話し合っ出された結論を、職員全員で統一的に実践し、その結果を改めて評価するサイクルの中で、利用者が安心して働けるよう努めてきた。
- ・年間の開所日数を増やし休日支援などを行った。職員勤務は、作業活動において職員と利用者配置をより効率的に工夫することでやりくりした。内容などを変えて実施し、毎回 5 名程度の利用者が参加した。

<利用者の健康について>

- ・運動機能の低下や持病の糖尿病、高血圧などへの配慮が必要な利用者に対しては職員間で情報共有の上、作業内容などに配慮し対応してきた。具体的には配慮が必要な方には、屋外の体力が必要な作業種は控え、室内などでの軽作業を多く取り組んでいただいたり、個別的な休憩を取っていただいたりするなどの対応をしてきた。
- ・年 2 回の健康診断、びーバー号利用は実施できたが、各市町村実施の成人病検診などの促しは取り組みが弱かった。